

# 男女共同参画推進室便り

◆ No. 2



## 今年度採用 育成研究員3名のご紹介

科学技術振興調整費「再チャレンジ！女性研究者支援神戸スタイル」のインキュベーションシステムでは、育成研究員を選考し、本学内の研究グループに配置し、総合的な研究力をキャッチアップさせる事業を行っています。

**理学研究科・生物学専攻 生命情報伝達 井上研究室所属 日下部りえさん**

専門は発生生物学で、動物の進化の背景にある遺伝子の変化に焦点をあてて研究してきました。

カリフォルニア大学バークレー校を卒業後、京都大学と北海道大学で大学院生時代を送り、兵庫県立大学や理研で研究員を務めてきました。たびたび所属を変えましたが、研究の事情に加え、自分の家庭を持ったという要因もありました。現在は小学生と保育園児計3人の子供たちを育て、にぎやかな毎日です。私の年代はいわゆる「ポスドク問題」の渦中にあり、安定した研究職を得るのは至難の業です。それでも一貫した研究を続けてきた裏には、やはり研究者である夫の助けと、周囲の方々の励ましがありました。また、忙しい日常にあっても、自然や生命の不思議さを解き明かしたいという気持ちと好奇心を失わずに過ごしてきたと思います。これからも、世界で自分にしかできないオリジナルな研究を目指して努力したいと思っています。

**工学研究科・機械工学専攻 創造設計工学 田浦研究室所属 山本英子さん**

私は膨大なテキストから人間にとって有用な知識を自動的に取り出すことを研究目標とし、情報抽出、知識発見、情報検索などの分野に貢献することを念頭に置き、研究を進めています。私の持つ技術は、実際の文書から有効な情報を取り出すという言語情報処理の基盤となる技術です。これらの技術は言語理解のための語彙情報の自動獲得を目的として開発しましたが、現在、情報検索支援や発想支援、さらには機械設計といった、別の分野への活用を検討しています。また、私が主に扱ってきた情報源となるデータは雑多に書かれたテキストデータで、これまでに日本語の新聞記事やWeb文書、報告書を扱っていますが、会話を書き起こしたテキストやOCRで入力した結果など、さらに日本語や英語だけを対象とするのではなく、言語を問わず、語を分ち書きしない中国語やタイ語、韓国語なども視野に入れて、研究を進めていきたいと考えています。

**工学研究科・機械工学専攻 材料物性学 保田研究室所属 新田紀子さん**

私は平成16年に高知工科大学にて博士（工学）の学位を取得し、日本学術振興会特別研究員、同大総合研究所助手、同大学工学部物質・環境システム工学科助手を経て、平成18年から京都大学原子炉実験所に非常勤研究員として勤務しました。平成19年11月より神戸大学工学研究科機械工学専攻育成研究員となり、現在に至っています。これまで一貫して半導体材料のイオン照射に関する研究に従事してきました。神戸大学では照射研究の領域をイオン照射から電子や光などの量子ビームにまで広げ、電子系の外部からの操作にまで踏み込んだ励起状態の照射研究を進めていく予定です。こうした基礎研究を通じて、新たな材料開発を行うことにもチャレンジしていきたいと思っております。よろしくおねがいします。



**お知らせ** 育成研究員研究発表会を下記日程で行います。

育成研究員3名が、OJTによる研究力キャッチアップの経過や、研究内容等を報告します。  
是非ご参加下さい。

日時：3月19日（水）13：30～

場所：工学部 創造工学スタジオ2 C3-101

## 男女共同参画推進室 活動報告

### 上川大臣もびっくり、ポスドクの処遇の悪さと子供を持ちにくい現状

神戸大学特別顧問 相馬芳枝

1月11日に、上川陽子内閣府特命担当大臣(少子化対策、男女共同参画)と懇談の機会がありました。訪問したメンバーは、男女共同参画学協会連絡会の第1期から6期の委員長。私も、第3期委員長として出席しました。連絡会では、昨年、科学技術系職員に対する、第2回目の大規模アンケートを実施し、1万4千人を上回る回答が得られました。主として、アンケート結果について、大臣に説明しました。アンケート結果を、企業、大学・研究機関の任期付き、任期なしの3種類について分類すると、任期付きの人は、平均給料が低く、子供の数も少ないということが浮かび上りました。子供を持ちにくい理由として、職業の不安定さ、上司の無理解等が挙げられました。上川大臣は、特に、ポスドク等の任期付研究員の給与が低く、子供を持ちにくいという現状を聞いて、驚かれていた様子でした。

### 活動報告 シンポジウム「仕事か育児か？はもう古い、両立させて輝こう！」に参加しました

近藤佳里 科学技術研究員

2007年12月22日にキャンパスプラザ京都で行われた第1回日本女性科学者の会関西支部シンポジウムに参加しました。会社、公的研究所、大学というそれぞれの環境で研究を続けている4人の女性研究者が、職場紹介、職場環境、また自身の経験やさまざまな思い、現状などを発表されました。子育て中の3人の女性の状況もさまざま、病気がちな子ども、積極的な協力をしない配偶者、自分自身の子育てに対する規範や思いなどで業績を築きにくかったこと、初めての子育てで研究との両立の困難さで自信を失いかけていていることや、対照的に企業での上司の理解やフレックスタイムの利用が有効だったことなど当事者ならではのお話をされました。また結婚したばかりの若い研究者は希望に満ち溢れ、研究と家庭生活を両立しようと前向きで強い決意を持っていました。その後のフリートークでは、先輩研究者や男性、学生から「夫が主夫になった」「夫の操縦方法」「出産は研究のマイナスになるのか」など忌憚のない意見が交わされました。また、神戸大学の「再チャレンジ！女性研究者支援神戸スタイル」のメンター制度についても新しい女性支援の形として、多くの関心が寄せられました。



### コラム ジェンダー・エンパワメント指数が、93カ国中、日本は54位

国連開発計画(UNDP)は人間開発報告書を発表し、経済力・教育・健康水準などに基づく人間開発指数(HDI)では、177カ国・地域中日本は8位でしたが、国会議員、専門職・技術職、管理職に占める女性の割合と男女の推定所得を用いて算出する「ジェンダー・エンパワメント指数」(GEM)が日本は93カ国中54位でした。今回の結果は、男女間の所得格差などが響き、先進国の中でも低い結果となりました。(朝日新聞2007/11/29)

※男女共同参画推進室では、神戸大学の職階別、所属別、学年別等の男女比をまとめた冊子「神戸大学教員・学生における女性比率—国立大学、米国大学との比較—」を作成しました。ご希望の方は、男女共同参画推進室までご連絡下さい。

